

生物機能工学研究部門が発足

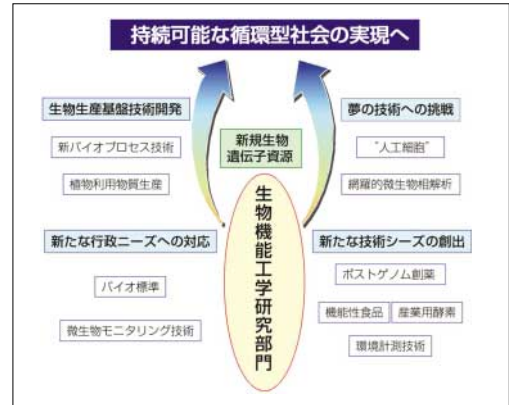
9月1日付で、生物遺伝子資源研究部門と分子細胞工学研究部門が統合され、新たに生物機能工学研究部門が発足しました。

当研究部門では、持続可能な循環型社会の実現を最大目標として、新規生物資源の探索・解析、有用遺伝子の探索、その発現産物であるタンパク質の機能解析、さらには生体分子・分子集合体の機能解析を基礎とした分子・細胞レベルでの生物機能の解明を、産業化を念頭に置き基礎

から応用に至るフェーズで研究開発を行っていきます。また、微生物モニタリング技術やバイオ標準等の行政ニーズの高い研究、ナノバイオテクノロジー等の分野融合性の高い研究課題にも積極的に取り組んでいきます。

研究部門の統合は産総研における研究ユニット構成のダイナミックな変革による研究活力の向上という大

きな戦略の一環をなすもので、今回の統合はその嚆矢となるものです。



モンゴル地質調査センター (GIC) と研究協力協定を締結

7月18日(木)、モンゴルのウランパートルにおいて、モンゴル地質調査センター (Sh Baasandorj 所長) と産総研地球科学情報研究部門 (加藤 碩一 部門長) の間で、研究協力協定が締結されました。

モンゴル地質調査センター [Geological Investigation Center (GIC)] は、モンゴル鉱物資源庁 (Mineral Resources Authority of Mongolia) 傘下の地質調査実施機関

の一つです。

GIC とは、旧工業技術院時代から ITIT 事業や JICA 技術協力プロジェクトを通じて、共同研究を行ってきました。

本協力協定による具体的な活動は、地質リモートセンシングによる地質マッピングの技術移転、地質データおよび技術情報の交換、研究者および大学院生交流、共同研究開発プロジェクトの準備および実施等



があり、今後さらなる研究協力の進展が期待されます。

火山とともに生きる北の大地 — 北海道の地質図展 —

8月2日(金)～4日(日)の3日間、札幌市博物館活動センターにおいて「北海道の地質図展」が同センター、北海道立地質研究所と産総研地質調査総合センターの共催で開催されました。

入口ホールの床一面には、住んでいる地域を足下に感じてもらうとデジタル編集の北海道地質図 (20万分の1、地形陰影付) を6×6mの大きさでプリントしたものが広げら

れました。この上に長時間座り込んで話し込んだり、旅行先を実際に辿ったりする親子もいて好評でした。

今回は2000年の有珠山噴火を経験した北海道での開催に因み、特に火山や活断層など生活に関連の深い分野に焦点を当てた展示のため、自分が住んでいる地域の身近な地質に関心が集まりました。また、北海道は日本で初めて地質図が作成された歴史を持っており、今回の展示は開拓時



代以降の歴史を振り返る良い機会ともなったようです。道内だけでなく関西など遠方からも来場者があり、200名を超える催しとなりました。